



さいたま市

令和5年度
さいたま市学習状況調査
正答例等

【国語】



令和6年2月
さいたま市教育委員会

目 次

正答例と特徴的な問題の解説

I	小学校 第3学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	2
2	調査問題一覧表【設問別】	3
3	正答例	4
4	特徴的な問題と解説	5
II	小学校 第4学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	6
2	調査問題一覧表【設問別】	7
3	正答例	8
4	特徴的な問題と解説	9
III	小学校 第5学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	10
2	調査問題一覧表【設問別】	12
3	正答例	13
4	特徴的な問題と解説【5・6年共通】	14
IV	小学校 第6学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	16
2	調査問題一覧表【設問別】	18
3	正答例	19
V	中・中等教育学校 第1学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	20
2	調査問題一覧表【設問別】	21
3	正答例	22
4	特徴的な問題と解説	23
VI	中・中等教育学校 第2学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	24
2	調査問題一覧表【設問別】	25
3	正答例	26
4	特徴的な問題と解説	27

正答例と

特徴的な問題の解説

国語科の調査問題について、小学校第3学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校それぞれの内容を日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問ごとに、問題の種類、学習指導要領の領域等、評価の観点、設問のねらいを示しています。

3 正答例

問題を解く方法(考え方)やこれまでの学習のつながり等を児童生徒向けに提示しています。

4 特徴的な問題と解説

令和5年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

※本書では、調査名について、略称を用いている。

調査名	略称
平成○年度 全国学力・学習状況調査	平成○年度全国調査
平成○年度 さいたま市学習状況調査 小○算数	平成○年度市調査【小○】
平成○年度 さいたま市学習状況調査 中○数学	平成○年度市調査【中○】

なお、本書で記載している全国調査の正答率は、市の正答率を示している。

I 小学校 第3学年
1 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	1	一	漢字	本問題では、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができているかどうかをみる問題である。そのために、消防署見学のお礼の手紙という児童にとって身近な話題を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかどうかを問う問題構成とした。なお、「しんせつ」は、昨年度同様、小3～小6の全ての学年で出題している。
		二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなすため、明瞭な文を書く際に最も基礎的な事項であることから、昨年度に引き続き出題した。なお、類似問題を小3～小6で出題している。
		三	指示語	本問題は、文の中の指示する語句について理解できているかどうかをみる問題である。令和4年度市調査【小3】では、正答率が7割を超えていたため、指示語を「これ」から「それ」に変更して理解度を調査することとした。
我が国の言語文化に関する事項	2		文字の組み立て方を理解して書く	本問題は、穂先の動きを意識した、正しい筆づかいを理解しているかをみる問題である。ここでは、毛筆で文字を書く際に気を付けさせたい点として、縦画や横画の穂先の向きを取り上げている。
読むこと	3		パイパーさんの性格について考える	本問題は、登場人物の性格を想像して文章を読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、登場人物の性格を想像するために、登場人物の会話文や行動描写、気持ちが書かれている文に着目して読み、それらの叙述を根拠として登場人物の性格を考える力が求められる。
書くこと	4		常体と敬体の文末表現に気を付けて書く	本問題は、常体と敬体の違いに注意しながら書くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、相手や目的に応じて常体と敬体を意識的に使い分け、文末表現に注意しながら書く力が求められる。
話すこと・聞くこと	5		「わたしのたからもの」というテーマで発表会をする	本問題は、相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができるかどうかを見る問題である。なお、本問題は令和4年度市調査【小3】及び令和元年度市調査【小3】の問題の類似問題である。令和4年度、令和元年度と比較すると、正答率が上がっているが、依然として53.5%と低い正答率である。小学校第3学年からの学習内容となるが、話すこと聞くことの基盤となる知識・技能となるため、話の中心を聞き手に伝えるために、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を意識できるようにしたい。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題			
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)		
		(1)	(2)	(3)	A	B	C												
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと												
①	一ア	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(親)	○						○			選	40.5	1.0	R4市【小3】	52.6	小4 小5 小6	65.9 70.7 80.6	
	一イ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(教)	○						○			選	79.5	1.0					
	一ウ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(車)	○							○			選	73.3	0.8				
	一エ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(事)	○							○			選	91.6	0.9				
	一オ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(地)	○							○			選	70.6	0.8	R4市【小3】	61.1		
	二ア	文中の主語と述語の関係を理解することができる。	○							○			選	25.7	0.7	R4市【小3】	68.6	小4	39.0
	二イ	文中の主語と述語の関係を理解することができる。	○							○			選	26.7	0.8	R4市【小3】	22.2	小4	33.0
	三	文中の指示する語句の役割について理解することができる。	○							○			選	87.4	0.7	R4市【小3】	79.7	小4	94.0
②	筆の運び方を確認することで、穂先の通るところを意識し、書くことができる。			○					○			選	29.6	1.1	H28市【小3】	79.1	小4	37.1	
③	登場人物の性格を想像して文章を読むことができる。									○		選	38.6	2.2	R4市【小3】	53.9			
④	常体と敬体に注意しながら書く。									○		選	83.9	1.8	R4市【小3】	60.4			
⑤	話の中心を聞き手に伝えるための話し方がわかる。				○					○		選	68.7	2.9	R4市【小3】	53.5	小4	83.6	

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答れい【小学校国語 だい3学年】

せつもん ばんごう		正答れい	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学しゅうのつながり など
①	一ア	2	<p>・かん字をれんしゅうする時は、かん字の書き方だけをれんしゅうするのではなく、そのかん字をつかったじゆく語をしらべたり、自分で文を作ったりするなど、文や文しょうの中でつかうことをいしきしてれんしゅうしましょう。そのとき、国語じてんもつかって、ことばをしらべ、つかえる言ばをふやせるとよりよいです。</p> <p>・ほかの教かや日じょう生活の中でも、学んだかん字をせっきよくてきにつかきましょう。</p>
	一イ	1	
	一ウ	3	
	一エ	1	
	一オ	2	
	二ア	23	
二イ	34		
三	3	<p>「こそあど言ば」のようなしじ語は、しじ語よりも前にさす言ばがあります。さす言ばをしじ語にあてはめて、意味が通じるかをたしかめてみましょう。</p>	
②	3	<p>ほ先を左ななめ上に向けて、送ひつすることが上手に書くポイントです。そのためにも、毛ひつ時には、手首で書こうとせずに、うでぜん体をつかって書くようにしましょう。</p>	
③	6	<p>とう場人ぶつのせいかくをそうぞうするときには、その人ぶつが「したこと」「言ったこと」「思ったこと・考えたこと」が書かれている文にちやく目しましょう。一つの文だけでせいかくを考えるのではなく、さまざまな文をむすびつけることで、よりはっきりとせいかくをそうぞうすることができます。</p>	
④	2	<p>あい手や目てきにおうじて、「～です」「～ます」の敬体(けいたい)と、「～だ」「～である」の常体(じょうたい)をつかい分け、文しょうの中で、まざらないようにしましょう。また、会話文の文まつは、地の文の書き方と同じになるとはかぎらないことに気をつけましょう。</p>	
⑤	4	<p>聞き手の立場に立って、どのような話し方であれば、あい手の話がつたわりやすいかを考えましょう。一番つたえたい話の中心を話すときは、言ばのよくようや強弱、間のとり方に気をつけると、話の内ようがつたわりやすいです。</p>	

4 特徴的な問題と解説

小学校第3学年 国語 読むこと

特徴的な問題

【問題3】

出題の趣旨

本問題は、登場人物の性格を想像して文章を読むことができるかどうかをみる問題である。そのため、【パイパーさんのバス】を読み、パイパーさんの性格を想像して交流する場面を設定した。ここでは、登場人物の性格を想像するために、登場人物の会話文や行動描写、気持ちが書かれている文に着目して読み、それらの叙述から登場人物の性格を考える力が求められる。

指導のポイント

○登場人物に関わる複数の叙述を結び付けて読む

登場人物の性格は、複数の場面に共通して一貫して描かれる場合と、多面的に描かれる場合がある。そのため、登場人物の境遇や状況を把握し、物語全体に描かれた行動や会話に関わる複数の叙述を結び付けて読むことが重要となる。複数の叙述を結び付けて考えることにより、より具体的に登場人物の性格を思い描くことができる。

授業例

- 登場人物の性格がよく表れている叙述を探し、本文が書かれたワークシート（全文が記載してあるワークシート等）に線を引き、そこから考えた性格を付箋紙に書いて貼る。
- 各自の考えをグループや全体で交流する。交流を通して、性格を表す言葉や文は物語全体に広がっており、複数の叙述を関係付けると、人物の性格がよりはっきりすることに気付くことができるようにする。交流する際は、以下のような視点をもたせることが考えられる。
 - 自分と同じ叙述を選んだ友達と交流する。
 - 自分と異なる叙述を選んだ友達と交流する。

…兵十のかけぼうしをふみふみ行きま した。	さびしがりや C、Dさん	なぐらねて… 「かわいそう」兵十は、いわし屋にぶん なぐらねて…	やあつ Bさん	「おれと同じ、ひとりのぼっちの兵十か。」 やあつ Bさん	…ちよいといたずらがしたくなった… さびしがりや A、Cさん	いたずら好き Dさん	… …夜でも風でも…いたずらばかりしま した。…	…ごんは、ひとりのぼっちの小さつね… いたずら好き Dさん	ごんぎつね 新美南吉 さびしがりや Cさん
--------------------------	--------------	--	---------	---------------------------------	-----------------------------------	------------	--------------------------------	----------------------------------	--------------------------

語彙を広げるために
「性格を表す言葉」の
語彙集を活用すること
が考えられる。



最初の方だけ読むと、ごんはいたずら好きだ
と思ったけれど、「兵十のかけぼうしをふみ
ふみ…」のところから、さびしがりやだから
いたずらしたのかと思ったよ。

(参考)

- 国立教育政策研究所「平成28年度 全国学力・学習状況調査 授業アイディア例」
- さいたま市教育委員会「令和4年度 さいたま市学習状況調査報告書 小学校 国語」



Dさんは、ごんのことをいたずら好きで、
さびしがりやだと思ったんだね。Dさん
の考えを聞いて、ごんについてよりよく
分かったよ。他にも性格が分かるところ
がないかな。探しながら読んでみよう！

Ⅱ 小学校 第4学年
1 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	1	一	漢字	本問題では、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができているかどうかをみる問題である。そのために、祖父母への手紙という児童にとって身近な話題を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかどうかを問う問題構成とした。なお、「しんせつ」は、昨年度同様、小3～小6の全ての学年で出題した。
		二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなすため、明瞭な文を書く際に最も基礎的な事項であることから、昨年度に引き続き出題した。なお、類似問題を小3～小6で出題している。
		三	指示語	本問題は、文の中の指示する語句について理解できているかどうかをみる問題である。令和4年度市調査【小4】では、正答率が8割を超えていたため、指示語を「これ」から「それ」に変更して理解度を調査することとした。
我が国の言語文化に関する事項	2		文字の組み立て方を理解して書く	本問題は、穂先の動きを意識した、正しい筆づかいを理解しているかをみる問題である。ここでは、毛筆で文字を書く際に気を付けさせたい点として、縦画や横画の穂先の向きを取り上げている。
読むこと	3		アサガオを説明する文章を読む	本問題は、目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができるかどうかを見る問題である。ここでは、目的に応じて中心となる内容を取り出す力が求められる。
書くこと	4		クラブ活動について3年生に紹介する文を分かりやすく書く	本問題は、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどを材料とし、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題である。そのために、3年生にクラブ活動について紹介する文を書く場面を設定した。ここでは、相手や目的を意識して、より分かりやすく伝えるために、目的に合わせた自分の体験を材料として書く力が求められる。
話すこと・聞くこと	5		「わたしのたからもの」というテーマで発表会をする	本問題は、相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができるかどうかを見る問題である。なお、本問題は令和4年度市調査【小3】及び令和元年度市調査【小3】の問題の類似問題である。令和4年度、令和元年度と比較すると、正答率が上がっているが、依然として53.5%と低い正答率である。小学校第3学年からの学習内容となるが、話すこと聞くことの基盤となる知識・技能となるため、話の中心を聞き手に伝えるために、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を意識できるようにしたい。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)	
		(1)	(2)	(3)	A	B	C											
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと											
①	一ア	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(屋)	○						○			選	73.5	0.6				
	一イ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(温)	○						○			選	74.4	0.5	H30市【小4】	71.8		
	一ウ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(宿)	○						○			選	77.5	0.5				
	一エ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(親)	○						○			選	65.9	0.4	R4市【小4】	69.0	小3 小5 小6	40.5 70.7 80.6
	一オ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(習)	○						○			選	79.5	0.4				
	二ア	文の中の主語と述語の関係を理解することができる。	○						○			選	39.0	0.3	R4市【小4】	74.3	小3	25.7
	二イ	文の中の主語と述語の関係を理解することができる。	○						○			選	33.0	0.4	R4市【小4】	29.2	小3	26.7
	三	文の中の指示する語句の役割について理解することができる。	○						○			選	94.0	0.4	R4市【小4】	87.4	小3	87.4
②	筆の運び方を確認することで、穂先の通るところを意識し、書くことができる。			○					○			選	37.1	0.5	H28市【小3】	79.1	小3	29.6
③	目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができる。								○			選	47.0	0.8	R4市【小4】	44.7		
④	具体的な事例を挙げて、分かりやすく説明することができる。						○			○		選	81.4	1.1	R2全国【小6】	—		
⑤	話の中心を聞き手に伝えるための話し方がわかる。				○					○		選	83.6	1.4	R4市【小3】	53.5	小3	68.7

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答れい【小学校国語 第4学年】

せつ問番号	正答れい	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等		
①	一ア	3	<p>・漢字を練習する時は、漢字の書き方だけを練習するのではなく、その漢字を使ったじゅく語を調べたり、自分で文を作ったりするなど、文や文章の中で使うことを意きして練習しましょう。そのとき、国語じてんや漢字じてんも使って、自分が使える言葉をふやせるとよりよいです。</p> <p>・他の教科や日じょう生活の中でも、学んだ漢字をせっきよくてきに使いましょう。</p>	
	一イ	2		
	一ウ	1		
	一エ	2		
	一オ	2		
	ニア	23		<p>主語は、言葉のさい後が「～は」「～が」「～も」で終わっているものをさがしましょう。じゅつ語は、文の終わりに注目してさがしましょう。そのさいに、主語とじゅつ語をつなげて意味が分かるかたしかめましょう。ふだんから、主語とじゅつ語を意きして文を読んだり書いたりすることが大切です。</p>
	ニイ	34		
三	3	<p>「こそあど言葉」のような指じ語は、指じ語よりも前に指す言葉があります。指す言葉を指じ語に当てはめて、意味が通じるかをたしかめてみましょう。</p>		
②	3	<p>ほ先を左ななめ上に向けたまま送筆することが、上手に書くポイントです。そのためにも、毛筆の時には、手首で書こうとせずに、うで全体を使って書くようにしましょう。</p>		
③	2	<p>目的におうじて、中心になる語や文をとらえるためには、「何のために」読むのかを的かくにとらえるひつようがあります。ふく数のし料をかんれん付けて、知りたいことのじょうほうは何かを考えて読むことで、中心となる内ようを取り出すことができます。</p>		
④	3	<p>つたえたいことを相手に分かりやすくせつ明するためには、つたえたいことを明らかにし、その内ようにあった具体的な事れいをあげて書くことがこう果的です。そのさい、自分の体験したことや聞いたこと、学習した事から等、つたえたいことと結び付く事れいを挙げましょう。</p>		
⑤	4	<p>聞き手の立場になって、どのような話し方であれば、相手に話がつたわりやすいかを考えましょう。一番伝えたい話の中心を話すときは、言葉のよくようや強弱、間の取り方に気を付けると、話の内ようがつたわりやすいです。</p>		

小学校第4学年 国語 書くこと

特徴的な問題

【問題4】

出題の趣旨

本問題は、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどを材料とし、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題である。そのために、3年生にクラブ活動について紹介する文を書く場面を設定した。ここでは、相手や目的を意識して、より分かりやすく伝えるために、目的に合わせた自分の体験を材料として書く力が求められる。

指導のポイント

○伝える相手や目的を意識して経験したことや想像したことを書き、伝わりやすい文章にする。

文章を書くときには、伝えたいことを整理し、読み手のことを考えながら文章を構成する必要がある。また、より伝わりやすく説得力のある文章を書くために、具体的な事例を挙げるのが効果的である。その際、目的に合った事例を選択することが大切である。

指導例 「3年生にクラブ活動のよさが伝わるように工夫しよう」

○文章を読みあって、工夫できるところ、直すところがないか意見を出し合い、より伝わりやすい文章にする。

四年生になると、クラブ活動が始まります。時間は、水曜日の六時間目です。わたしたちの学校には、全部で九つのクラブがあります。クラブ活動は、四年生から六年生までが集まって活動します。はじめは少しきんちようするかもしれませんが、徐々に慣れて、五年生や六年生がともやさいいので、すくにながよくなり、楽しく活動することができそうです。三学期には、クラブ発表会があります。どのクラブに入るか参考してください。

クラブの種類や自分が何クラブに入っているか、書いてみたら？



クラブが楽しいことが分かるように、エピソードを入れたらどうかな？



バドミントンが上手になってうれしかったことを書いてみようかな。



バドミントンクラブが楽しかったことは、伝わると思うけど、他のクラブに入りたい子もいるし・・・3年生に伝えたい「クラブ活動のよさ」がよく分かるエピソードはないかな？



クラブのはじめの頃に優しく話しかけてもらったことを書いてみようかな。



それなら、上級生と仲良く活動できるという「クラブ活動のよさ」が伝わるね。



相手を意識して、「クラブ活動のよさを伝える」という目的に合った、具体的なエピソードを入れる工夫ができましたね。クラブ活動のよさが伝わり、3年生も安心してクラブ活動に参加できそうですね。



四年生になると、クラブ活動が始まります。時間は、水曜日の六時間目です。わたしたちの学校には、全部で九つのクラブがあります。クラブ活動は、四年生から六年生までが集まって活動します。はじめは少しきんちようするかもしれませんが、私もわたしもクラブが始まったころは、みんなどうまく話すことができませんでした。けれども、そんなわたしを見て、すぐに五年生や六年生がやさしく話しかけてくれました。今では、みんなとながよくなり、クラブがともやさいいになっています。三学期には、クラブ発表会があります。どのクラブに入るか参考してください。

(参考)

- ・国立教育政策研究所「令和3年度 全国学力・学習調査 授業アイデア例」
- ・さいたま市教育委員会「平成30年度 さいたま市学習状況調査報告書 小学校 国語」

Ⅲ 小学校 第5学年
1 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	1	一	漢字	本問題では、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができているかどうかをみる問題である。そのために、夏休みの思い出の作文という児童にとって身近な話題を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかどうかを問う問題構成とした。令和4年度市調査【小5】で、正答率が49.6%だった「課」を今年度も出題した。また、「しんせつ」は、昨年度同様、小3～小6の全ての学年で出題した。
		二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなすため、明瞭な文を書く際に最も基礎的な事項であることから、昨年度に引き続き出題した。なお、類似問題を小3～小6で出題している。
		三	敬語	本問題は、日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れているかどうかをみる問題である。令和4年度市調査【小5】において正答率が5割と課題が見られたため再度出題した。
情報の扱い方に関する事項	2		言葉の意味を調べる	表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書等を利用して調べることができるかをみる問題である。ここでは、似た意味の言葉を調べ、クイズにして解き合う言語活動を設定した。辞書等で調べたことを正しく理解し、説明する力が求められる。
読むこと	3		俳句を調べ紹介する	本問題は、俳句を詠んだ作者の心情や情景について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題である。そのために、好きな俳句をグループで選び、俳句について考えたことを交流する場面を設定した。ここでは、声に出して読みながら、二つの句に共通すること、作者が捉えた情景や季節感を捉える力が求められる。
書くこと	4		ポスターづくりの原稿を書く	本問題は、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題である。自分の伝えたいことが明確になるように、簡単に書いたり詳しく書いたりする力が求められている。

書くこと	5	ごみを減らすための行動を提案する	<p>本問題（１）は、目的や意図に応じて文章全体の構成を考える問題である。自分の考えを明確に表現するためには、目的や相手に応じて文章全体の構成を工夫して書くことが大切である。ここでは、岩田さんが、読者である学級の友達にプラスチックごみの問題を自分のこととして捉えてもらうために、プラスチックについての身近な具体例を最初に書いているという構成の工夫に気付くことが求められる。</p> <p>本問題（２）は、表を用いた目的を考える問題である。岩田さんは【下書き②】に「まずは一週間、プラスチックごみを減らすことに取り組んでみる」こと、「実行できたら口の中に印を入れ、どのくらい実行できているのかをたしかめる」こと、「例をもとに具体的な行動を考えて実行してみる」こと、と書いている。これらのことが、「プラスチックの３Ｒ週間 チャレンジ表」を用いた意図であることに着目する必要がある。そして、３Ｒを意識して実行してもらうために、「具体的な行動」の例を３Ｒという観点で分類した表を用いていることも捉える必要がある。</p>
話すこと・聞くこと	6	栄養士の先生の仕事を紹介するためにインタビューをする	<p>本問題では、学校の栄養教諭の先生を紹介するためのインタビュー場面を設定した。丸山さんは、自分の考えを基に、確かめたい点や具体的に知りたい点を質問しながらインタビューしている。ここでは、質問の意図を把握すること、必要なことを質問しながら聞くこと、適切な敬語の使い方について理解することが求められる。</p>
話すこと・聞くこと	7	「読書キャンペーン」の取組内容を話し合う	<p>本問題は、話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができるかどうかをみる問題である。そのために、委員会での話し合いにおける助言の場面を設定した。ここでは、話し手の問いに対し、共感しつつ新たな考えを提示するなどして効果的に助言をしていることを説明することが求められる。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題			
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)		
		(1)	(2)	(3)	A	B	C												
		言葉の特徴や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと												
①	一イ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(親)	○						○			選	70.7	0.6	R 4市【小5】	78.2	小3 小4 小6	40.5 65.9 80.6	
	一ウ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(料)	○						○			選	84.2	0.6					
	一エ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(課)	○							○			選	74.8	0.8	R 4市【小5】	49.6		
	一オ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(満)	○							○			選	87.2	0.6	H30市【小5】	90.9		
	二ア	文の中の主語と述語の関係を理解することができる。	○							○			選	65.0	0.4	R 4市【小5】	56.6	小6	69.2
	二イ	文の中の主語と述語の関係を理解することができる。	○							○			選	32.0	0.4	R 4市【小5】	27.5	小6	32.6
	三	相手や場面に応じて、適切に敬語を使うことができる。	○							○			選	55.2	0.3	R 4市【小5】	50.1	小6	65.1
②	表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べることができる。	○							○			選	88.8	0.4	H20全国【小6】	53.4	小6	91.4	
③	一	俳句を詠んだ作者の心情や情景について、描写を基に捉えることができる。							○	○		選	79.5	0.4	R 4市【小5】	80.8	小6	78.3	
	二	俳句を詠んだ作者の心情や情景について、描写を基に捉えることができる。							○	○		選	45.1	0.5	R 4市【小5】	46.3	小6	58.3	
④	自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができる。								○	○		選	62.9	0.4	R 4市【小5】	78.8			
⑤	一	目的に応じて文章全体の構成の効果を考え、適切なものを選択できる。							○	○		選	72.8	0.6	R 2全国【小6】	—			
	二	表を用いた目的を考え、適切なものを選択できる。							○	○		選	82.1	0.8	R 2全国【小6】	—			
⑥	必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉え、自分の考えをもつことができる。							○	○		選	40.1	0.8	R 5全国【小6】	75.6				
⑦	一①	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。							○	○		選	50.7	1.3	R 4市【小5】	55.0	小6	61.5	
	一②	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。							○	○		選	62.9	1.3	R 4市【小5】	67.2	小6	72.6	
	一③	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。							○	○		選	58.8	1.6	R 4市【小5】	65.1	小6	68.0	
	二	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。							○	○		選	46.4	2.0	R 4市【小5】	51.8	小6	56.1	

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
 複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。
 調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査
 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校国語 第5学年】

せつ問番号		正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
①	ーイ	2	<p>・漢字を練習する時は、漢字の書き方だけを練習するのではなく、その漢字を使ったじゅく語を調べたり、自分で文を作ったりするなど、文や文章の中で使うことを意識して練習しましょう。そのとき、国語辞典や漢字辞典も使って語いを増やせるとよりよいです。</p> <p>・他の教科や日常生活の中でも学んだ漢字を積極的に使いましょう。</p>
	ーウ	3	
	ーエ	3	
	ーオ	1	
	ニア	24	
	ニイ	24	<p>主語は、言葉の最後が「～は」「～が」「～も」で終わっているものをさがしましょう。じゅつ語は、文の終わりに注目してさがしましょう。その際に、主語とじゅつ語をつなげて意味が分かるか確かめましょう。ふだんから、主語とじゅつ語を意識して文を読んだり書いたりすることが大切です。</p>
	三	3	<p>敬語(けいご)には「尊敬(そんけい)語」「謙譲(けんじょう)語」「丁寧(ていねい)語」があり、相手のしていることには「尊敬語」を使います。自分や自分の家族には「尊敬語」を使いません。生活の中で意識して使うことで身に付いていきます。</p>
②		4	<p>似たような意味の言葉のちがいを調べる時は、辞書等で説明された内容を正しく理解することが大切です。説明の中に分からない言葉があったら、さらにその言葉を調べると理解が深まります。また、例文にも着目し、具体的な使用例から言葉の意味をとらえることも大切です。</p>
③	ー	1	<p>俳句(はいく)には、五・七・五を中心としたリズムの十七音という限られた音数の中に、季節感や風情、作者の思いなどがこめられています。くり返し音読することで、国語の美しいひびきを感じ取りながら文語の調子に親しむことや、俳句の情景や作者の思いなどを思いうかべてみましょう。また、俳句をくり返し音読しながら、言葉の美しいひびきや俳句のもつリズムに着目して、俳句に表れている情景や作者の思いについて交流することで、自分が想像したことを広げたり深めたりしながら、より俳句の情景をとらえることができます。</p>
	二	3	
④		34	<p>すいこう前後をくらべて、新たに加わった文章に着目しましょう。すいせんしたい理由を書く時は、くわしく書く部分や短くまとめて書く部分をもうけることで効果的に伝えることができます。</p>
⑤	ー	2	<p>プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】の最初の「」の内容を、どのように工夫して書いているのか、適切なものを選たくします。ここでは、岩田さんが「読者である学級の友達にプラスチックごみの問題を自分のこととしてとらえてもらう」という意図で文章こう成を工夫していることに着目することが大切です。</p>
	二	4	
⑥		3	<p>丸山さんの質問は何のためにしたのかを考えることが大切です。アにおいては、相手の話の内容について、より具体的に知るための質問になっていることに着目しましょう。また、イにおいては、丸山さんが、聞いた事がらをもとに、わからない点や確かめたい点を質問していることに着目しましょう。</p>
⑦	ー①	4	<p>助言をする際には、相手の立場や状況に合わせて、共感的な態度で相手が話す内容を理解していくことが重要です。また、具体的な意見や提案を一方的に伝えるのではなく、相手が自ら課題を解決できるような助言をすることが大切です。助言をし合っている様子をグループ同士で見合うことで、どのような助言の仕方が有効であったかを確にんしてみると効果的です。</p>
	ー②	1	
	ー③	3	
	二	1	

4 特徴的な問題と解説

小学校第5・6学年 国語 話すこと・聞くこと

特徴的な問題【問題7】

出題の趣旨

本問題は、話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができるかどうかをみる問題である。そのために、図書委員会での話し合いにおける助言の場面を設定した。ここでは、話し手の問いに対し、共感しつつ新たな考えを提示するなどして効果的に助言をしていることを説明する力が求められる。

指導のポイント

○相手の立場や状況を踏まえ、適切かつ効果的に助言をする

助言をする際には、相手の立場や状況を十分に感じ取ろうとする共感的な態度で話す内容に質問をし、自分の考えを明確にしながら相手に伝えることが重要である。また、具体的な意見や提案を一方的に伝えるのではなく、相手が自ら課題を解決できるような助言となるように指導することも大切である。具体的には、1つのグループ内で助言をし合っている様子を、他のグループが観察するような場面を設定し、それぞれの助言の仕方について評価し合うように指導することが考えられる。

○自分が助言をしてほしいポイントを明確にする

助言を求める際には、自分がどのようなことに困っているのか、どの部分について助言をしてほしいのかを明確にすることで、より話し合いが深まる。

【話を聞く際の基本的な構えやポイント】

共感

- 相手の顔を見て集中して聞く。
- あいづち打ったり、うなずいたりして聞く。
- 大事なことを落とさないように、必要に応じてメモを取って聞く。
- 相手の立場や状況を理解しながら聞く。
- 相手の良いところを見付けながら聞く。

質問

- 分からない点を明確にするために質問をする。
- 相手のもつ情報を確かめるために質問をする。
- 話を聞いて理解したことが正しいかどうか確認する。
- 相手のもつ情報を整理したり、目的を確認したりする。
- 自分の考えと比べて聞き、相違点について質問をする。

【助言を行う際の基本的な構えやポイント】

助言

- 自分の直接体験(成功例や失敗例)を基に助言をする。
- 収集した知識や情報を基に助言をする。
- 相手がちもっていない観点を基に助言をする。
- 相手の選択の幅を広げるように助言をする。
- 目的を再確認できるように助言をする。

～提案に対して助言をしている様子～



来月のクラスレクにドッジボールを提案しようと思っています。みんなにどうしたらドッジボールのよさを伝えられるか悩んでいます。

【自分の体験を基にした助言の例】

前にクラスレクの提案をしたとき、学級でとったアンケート調査の結果を基にしたら説得力があったよ。今回も調査をしてみたらどうだろう。

【目的を再確認させる助言の例】

クラスレクの目的は、みんなで楽しく遊ぶことだね。その目的に対してドッジボールがふさわしいという理由を、提案の中に入れるとよいと思うよ。



【相手がちもっていない観点を基にした助言の例】

晴れていればドッジボールでよいと思うけど、雨が降ったらどうするのかな。天気のことも考えて提案するとよいと思うよ。

IV 小学校 第6学年
1 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	1	一 漢字	本問題では、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができているかどうかをみる問題である。そのために、つぼみの日の振り返りという児童にとって身近な話題を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかどうかを問う問題構成とした。令和4年度市調査【小5】で正答率が49.6%だった「課」を、【小6】で正答率が50.7%だった「積」を今年度も出題した。また、「しんせつ」は、昨年度同様、小3～小6の全ての学年で出題した。
		二 主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなすため、明瞭な文を書く際に最も基礎的な事項であることから、昨年度に引き続き出題した。なお、類似問題を小3～小6で出題している。
		三 敬語	本問題は、日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れているかどうかをみる問題である。令和4年度市調査【小6】において正答率が5割と課題が見られたため再度出題した。
情報の扱い方に関する事項	2	言葉の意味を調べる	表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書等を利用して調べることができるかをみる問題である。ここでは、似た意味の言葉を調べ、クイズにして解き合う言語活動を設定し、辞書等で調べたことを正しく理解し、説明する力が求められる。
読むこと	3	俳句を調べ紹介する	本問題は、俳句を詠んだ作者の心情や情景について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題である。そのために、好きな俳句をグループで選び、俳句について考えたことを交流する場面を設定した。ここでは、声に出して読みながら、二つの句に共通すること、作者が捉えた情景や季節感を捉える力が求められる。
書くこと	4	推薦文を比較し、ノートにまとめる	本問題は、筋道の通った文章になるように文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題である。相手に分かりやすく伝わるように、論の進め方に注意して書く力が求められている。

書くこと	5	ごみを減らすための行動を提案する	<p>本問題（１）は、目的や意図に応じて文章全体の構成を考える問題である。自分の考えを明確に表現するためには、目的や相手に応じて文章全体の構成を工夫して書くことが大切である。ここでは、岩田さんが、読者である学級の友達にプラスチックごみの問題を自分のこととして捉えてもらうために、プラスチックについての身近な具体例を最初に書いているという構成の工夫に気付くことが求められる。</p> <p>本問題（２）は、表を用いた目的を考える問題である。岩田さんは【下書き②】に「まずは一週間、プラスチックごみを減らすことに取り組んでみる」こと、「実行できたら口の中に印を入れ、どのくらい実行できているのかをたしかめる」こと、「例をもとに具体的な行動を考えて実行してみる」こと、と書いている。これらのことが、「プラスチックの３Ｒ週間 チャレンジ表」を用いた意図であることに着目する必要がある。そして、３Ｒを意識して実行してもらうために、「具体的な行動」の例を３Ｒという観点で分類した表を用いていることも捉える必要がある。</p>
話すこと・聞くこと	6	卒業生から全校に向けてテレビ放送をする	<p>本問題は、二つの発表原稿を読み比べ、教師の助言を受け、発表原稿の何をどのように修正したかを正しく捉える問題である。相手に自分の話の内容をより明確に伝えるために資料を活用したり、自分の考えが伝わるように文章構成等を工夫したりした点を理解する力が求められる。</p>
話すこと・聞くこと	7	「読書キャンペーン」の取組内容を話し合う	<p>本問題は、話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができるかどうかをみる問題である。そのために、委員会での話し合いにおける助言の場面を設定した。ここでは、話し手の問いに対し、共感しつつ新たな考えを提示するなどして効果的に助言をしていることを説明することが求められる。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の内容					評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)	
		(1)	(2)	(3)	A	B											C
		言葉の特徴や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと										
①	一ア	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(課)	○						○			選	74.4	0.2	R4市【小5】	49.6	
	一イ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(部)	○						○			選	91.0	0.2			
	一ウ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(親)	○						○			選	80.6	0.1	R4市【小6】	89.5	小3 小4 小5 40.5 65.9 70.7
	一エ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(積)	○						○			選	46.8	0.2	R4市【小6】	50.7	
	一オ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(義)	○						○			選	55.4	0.2			
	二ア	文中の主語と述語の関係を理解することができる。	○						○			選	69.2	0.1	R4市【小6】	62.4	小5 65.0
	二イ	文中の主語と述語の関係を理解することができる。	○						○			選	32.6	0.1	R4市【小6】	30.3	小5 32.0
	三	相手や場面に応じて、適切に敬語を使うことができる。	○						○			選	65.1	0.1	R4市【小6】	59.9	小5 55.2
②	表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べることができる。	○						○			選	91.4	0.1	H20全国【小6】	53.4	小5 88.8	
③	一	俳句を詠んだ作者の心情や情景について、描写を基に捉えることができる。						○	○		選	78.3	0.1	R4市【小6】	80.8	小5 79.5	
	二	俳句を詠んだ作者の心情や情景について、描写を基に捉えることができる。						○	○		選	58.3	0.2	R4市【小6】	46.3	小5 45.1	
④	文章全体の構成や展開を考えることができる。						○	○			選	49.8	0.3				
⑤	一	目的に応じて文章全体の構成の効果を考え、適切なものを選択できる。					○	○			選	82.8	0.3	R2全国【小6】	—		
	二	表を用いた目的を考え、適切なものを選択できる。					○	○			選	84.6	0.3	R2全国【小6】	—		
⑥	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。					○		○			選	62.7	0.3				
⑦	一①	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。					○		○		選	61.5	0.6	R4市【小6】	58.9	小5 50.7	
	一②	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。					○		○		選	72.6	0.6	R4市【小6】	76.9	小5 62.9	
	一③	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。					○		○		選	68.0	0.6	R4市【小6】	72.1	小5 58.8	
	二	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。					○		○		選	56.1	1.2	R4市【小6】	60.5	小5 46.4	

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げて(同一問題には◎を付けている)。調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校国語 第6学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等		
①	ーア	3	<p>・漢字を練習する時は、漢字の書き方だけを練習するのではなく、その漢字を使った熟語を調べたり、自分で文を作ったりするなど、文や文章の中で使うことを意識して練習しましょう。そのとき、国語辞典や漢字辞典も使って語いを増やせるとよりよいです。</p> <p>・他の教科や日常生活の中でも学んだ漢字を積極的に使いましょう。</p>	
	ーイ	1		
	ーウ	2		
	ーエ	1		
	ーオ	2		
	ニア	24		<p>主語は、言葉の最後が「～は」「～が」「～も」で終わっているものを探しましょう。述語は、文の終わりに注目して探しましょう。その際に、主語と述語をつなげて意味が分かるか確かめましょう。ふ段から、主語と述語を意識して文を読んだり書いたりすることが大切です。</p>
	ニイ	24		
三	3	<p>敬語には「尊敬語」「謙譲(けんじょう)語」「丁寧(ていねい)語」があり、相手のしていることは「尊敬語」を使います。自分や自分の家族には「尊敬語」を使いません。生活の中で意識して使うことで身に付いていきます。</p>		
②	4	<p>似たような意味の言葉のちがいを調べる時は、辞書等で説明された内容を正しく理解することが大切で、説明の中に分からない言葉があったら、さらにその言葉を調べると理解が深まります。また、例文にも着目し、具体的な使用例から言葉の意味をとらえることも大切です。</p>		
③	ー	2	<p>俳句には、五・七・五を中心としたリズムの十七音という限られた音数の中に、季節感や風情、作者の思いなどがこめられています。くり返し音読することで、国語の美しいひびきを感じ取りながら文語の調子に親しむことや、俳句の情景や作者の思いなどを思い浮かべてみましょう。また、俳句をくり返し音読しながら、言葉の美しいひびきや俳句のもつリズムに着目して、俳句に表れている情景や作者の思いについて交流することで、自分が想像したことを広げたり深めたりしながら、より俳句の情景をとらえることができます。</p>	
	二	3		
④	イ→ア→エ→ウ		<p>文章の全体の構成を考える際には、それぞれの段落の内容にどのようなことを書いたらよいかを意識しましょう。読み手への問題提起、身近な体験や経験をもとにした実態のはあく、自分の意見、全体のまとめを書くなど話の展開を工夫することで自分の提案が伝わりやすくなります。</p>	
⑤	ー	2	<p>プラスチックの3R週間を提案する【下書き①】の最初の「……」の内容を、どのように工夫して書いているのか、適切なものを選たくします。ここでは、岩田さんが「読者である学級の友達にプラスチックごみの問題を自分のこととしてとらえてもらう」という意図で文章構成を工夫していることに着目することが大切です。</p> <p>プラスチックの3R週間を提案する【下書き②】の「プラスチックの3R週間 チャレンジ表」をどのような目的で書いているのか、適切なものを選たくします。ここでは、岩田さんが「3Rを意識して実行してもらうために、具体的な行動の例を3Rという観点で分類した表を用いている」ことに着目しましょう。</p>	
	二	4		
⑥	24		<p>2つの原こうを読み比べることを通して、資料の活用方法や相手の興味をひく話し方などを考えていきます。資料を用いる目的としては、説明を補足したり、伝えたいことを強調したりすることなどが挙げられ、それを正しく理解することができるかが重要です。また、聞き手を意識した話し方について考えることで、より相手に自分の話を注意深く聞かせられるかも大切です。</p>	
⑦	ー①	4	<p>助言をする際には、相手の立場や状況に合わせて、共感的な態度で相手が話す内容を理解していくことが重要です。また、具体的な意見や提案を一方的に伝えるのではなく、相手が自ら課題を解決できるような助言をすることが大切です。助言をし合っている様子をグループ同士で見合うことで、どのような助言の仕方が有効であったかを確認してみると効果的です。</p>	
	ー②	1		
	ー③	3		
	二	1		

V 中・中等教育学校 第1学年

1 調査問題【出題の趣旨】

話すこと・聞くこと	1	話し合いをする	校外学習の思い出の展示内容について、グループで話し合う場面を設定した。話題を意識しながらその経過を捉えて話し合うことや、互いの発言を結び付けて集団としての考えをまとめることを求めている。
書くこと	2	案内文を書く	合唱祭実行委員が、地域の方に「合唱祭の案内状」を書く場面を設定した。案内文の形式や必要な情報について考えたり、読み手の立場に立って文章を整えたりすることを求めている。
読むこと	3	文学的な文章を読む	『ソノリティ はじまりのうた』という作品を取り上げた。登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えたり解釈したりするとともに、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることを求めている。
言葉の特徴や使い方に 関する事項	4	漢字 文や文章 語彙	音訓や意味、用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を使うこと、主語と述語との関係について理解すること、慣用句の意味を理解し、文章の中で使うことを求めている。
我が国の言語文化に 関する事項	5	伝統的な言語文化 書写	『竹取物語』を取り上げた。現代の口語とは異なる古文特有のきまりの一つとして、歴史的仮名遣いを理解すること、漢字の行書の特徴として、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどを理解することを求めている。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			市		過去同一問題等		複数学年での出題		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択 択式・ 式・ 式・ 選短	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	出 題 年 度 ・ 調 査 名 【 学 年 】	正 答 率 (%)	出 題 学 年	正 答 率 (%)			
		(1)	(2)	(3)	A	B	C													
		言葉 の 特 徴 や 使 い 方 に 関 する 事 項	情 報 の 扱 い 方 に 関 する 事 項	我 が 国 の 言 語 文 化 に 関 する 事 項	話 す こ と ・ 聞 く こ と	書 く こ と	読 む こ と													
①	1						○			○			選	80.9	0.3	R1市 【中2】	87.1			
	2						○			○			選	87.0	0.1					
	3						○			○			選	76.0	0.3					
	4						○			○			選	72.7	0.2	R1市 【中1】 R4市 【中2】	59.6 70.8	中2	72.0	
②	1						○			○			選	72.4	0.2					
	2									○			選	78.2	0.1					
	3									○			選	85.2	0.1					
	4									○			選	87.7	0.2					
③	1									○			選	85.6	0.3					
	2									○			選	82.3	0.3					
	3-1									○			短	40.7	10.9					
	3-2									○			短	40.7	10.9					
	4									○			選	56.1	0.6					
	5									○			選	65.8	0.9					
④	1									○			選	95.0	0.7					
	2-1									○			選	66.0	0.6	R4市【中1】 R4市【中2】	61.6 82.5	小6	69.2 32.6	
	2-2									○			選	79.0	0.6	R4市【中1】 R4市【中2】	86.1 87.0			
	3									○			選	95.3	0.7					
⑤	1①									○			短	87.1	3.8	R1市【中1】 R4市【中1】 R1市【中2】 R4市【中2】	63.0 48.7 74.5 53.3	中2	60.0	
	1②									○			短	35.1	7.1					
	2									○			選	84.5	1.1					

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
 複数ある場合は、代表的なものを挙げている。
 調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査
 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、さいたま市の正答率を示している。
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中・中等教育学校国語 第1学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等	
①	1	ウ	話を聞くときには、聞き手自身があらかじめ話題に対して考えをもった上で客観的に捉え、自分の考えと比較して共通点や相違点を探りながら聞くことにより、自分の考えがさらに深まります。したがって、適切でないものとしてウが正答となります。
	2	ア	山下さんの発言は、北山さんと安本さんの発言を受けての内容であることに注目します。北山さんは、全員が自分の思いを表現することが大切だととらえ、短歌を書いて展示をするという意見を出し、安本さんはそれに賛成しています。山下さんの発言には、北山さんの言葉を受け「自分の思いを一人ひとりが表現できる」とあるので、Aは「賛成」であることが分かります。一方、その後の発言を読むと、「ただ」という接続詞や、「例えば」と新たな提案をしていること、さらに、その後の高井さんの発言を踏まえると、Bは「物足りない」とあることが分かります。したがって、アが正答となります。
	3	ア	【グループでの話し合い】の展開を踏まえた、グループとしての考えのまとめを問うものです。話し合いでは、北山さんの「思い出を短歌にして毛筆で短冊に書いて展示すること、安本さんの「短歌の内容はグループごとにテーマを分ける」とこと、小島さんの「思い出を一枚の大きな絵に描き、その周りに短冊を飾ること」が支持されているととらえることができます。したがって、それらの内容が含まれた選択肢として、正答はアとなります。
	4	ウ	話すときには、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することが大切です。相手の反応を踏まえるには、うなずきや表情などの聞き手の反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉えることが大切です。したがって、ウが正答となります。なお、表現の工夫としては、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意することが重要となります。
②	1	イ	【案内状の下書き】のAの部分の特徴についての問いです。案内をする文章には、行事名、日時、場所、内容など、必要な情報を漏れなく書くことが必要です。ここでは、それらの情報を項目ごとに分けて書いているので、イが正答となります。
	2	ウ	読み手の立場に立って話し合った改善点なので、読み手である「地域の方」を想定し、必要でないと考えられるものを「適切でないもの」と判断します。ここでは、「実行委員の集合時間」は必要な情報ではないので、ウが正答となります。
	3	ウ	2と同様に、読み手を「小学生」としたときに必要な工夫を検討する問いです。ここでは、「気を遣う必要はないので、丁寧な言葉を使わずに書く」ことが適切でない判断されるため、正答はウとなります。
	4	イ	文章には様々な種類があり、その目的や意図に応じて、適切な情報を用いることが求められます。案内状を書く際には、案内をするという目的や意図に従い、1に挙げたような情報を整理して簡潔にわかりやすく伝える必要があるため、正答はイとなります。
③	1	B	挙げられた一文は「～ようだった」という比喩表現であることから、「体育館だけでなく、～眠りから覚めていない」様子が表れている箇所を探します。ここでは、直前に「体育館からは何の音も聞こえてこなかった」とあるため、正答はBとなります。
	2	エ	「学校への道すがら、ずっと同じことを考えていた」とあるので、早紀が学校へ向かう場面を読むと、「岳が自分のせいで、合唱コンクールに出なかつたらどうしよう、という心配が止まらなかつた」とあるため、正答はエとなります。
	3-1	ア 不思議そうに首をかしげた	傍線の手前を読むと「極度の緊張がかすかに弛緩した～やっと言えた。」とあります。つまり、早紀は岳に「合唱コンクール、休んだりしないよね？」と質問し、その返答を聞くことに対し、緊張して力が入っていたということです。なぜなら、2にあるように、早紀は自分のせいで岳が合唱コンクールに出ないのではないかと心配していたからです。質問後、「その表情に、一気に力が抜けた」ということは、その心配が取り越し苦労だったということがわかったからととらえられます。したがって、正答例のとおりそれぞれの箇所を書き抜くことで正答となります。
	3-2	イ 合唱コンクールも休まない	
	4	ウ	傍線は「シュポッという小気味よい音」「ボールは網をすり抜けた」という前向きな描写となっています。したがって、この描写が象徴することも、前向きな内容であることが考えられます。したがって、「逃れ続ける」という後ろ向きな内容が適切ではないととらえることができるため、正答はウとなります。
	5	エ→ア→イ→ウ	これまでの問いにも表れていますが、早紀の心情は「自分のせいで岳が合唱コンクールに出ないのではないか」という心配から、体育館に誰もいないと思うことによる孤独感、岳への質問に対する緊張、その後の岳の反応による安心、という変化を遂げています。したがって、エ→ア→イ→ウの順が正答となります。
④	1	エ	「おった」の異字同訓の漢字を問うものです。空欄前後の文脈から、少年が老人のあとを「おった」という内容となっています。先を行くものに到達しようとして後から進むことを表す「おった」と判断し、正答はエとなります。
	2-1	主語…イ	文中の主語と述語を指摘する問いです。まずは述語を探します。述語は「どうする、どんなだ、何だ」を表し、原則として文の一番最後にくるので、「エ 確かだった」となります。一方、主語は、述語の主体となります。「何が確かだったのか」を探すと、「イ 足どりは」が導き出されます。
	2-2	述語…エ	
	3	ウ	「さし」の異字同訓の漢字を問うものです。空欄前後の文脈から、岩の後ろから老人が「さし」示しているという内容となっています。指などで目標とする事物や場所・方向などをそれと示すことを意味する「さし」と判断し、正答はウとなります。
4	ア	文脈から、山と山の間から見える峰の美しい姿に驚いた様子であることが考えられます。したがって、驚きや恐れを表す慣用句となるアが正答となります。	
⑤	1①	いう	古文のきまりの一つである、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問いです。語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お(わ行)」に直すこと、「ア段」+「う・ふ」は「オ段」の長音に直すこと、「む」は「ん」に直すすまりに従い、正答例のように直します。
	1②	もうさん	
	2	ウ	行書の特徴について理解しているかを問うものです。行書の特徴として、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどが挙げられるので、ウが正答となります。

4 特徴的な問題と解説

中・中等教育学校第1学年 国語 書くこと

特徴的な問題

【問題2】案内文を書く

出題の趣旨

合唱祭実行委員が、地域の方に「合唱祭の案内状」を書く場面を設定した。案内文の形式や必要な情報について考えたり、読み手の立場に立って文章を整えたりすることを求めている。

指導のポイント

○目的や意図に応じて、伝えるべきことを整理して書く

行事の案内などの実用的な文章を書く際には、伝えたいことが伝わる文章になるように、相手や目的に応じて伝えるべき事柄を取捨選択したり再構成したりして、簡潔に分かりやすく書くことが大切である。例えば、行事を案内する文章には、行事名、日時、場所、内容などのほか、参加してほしいといったお願いなど、必要な情報を漏れなく書く必要がある。

そのためには、まず、何のために、誰に対して、どのような意図をもって書くのかなどを具体的に考え、伝えたいことがそれらに合っているかを判断する必要がある。その上で、集めた材料を比較しながら取捨選択したり、ある観点から分類したり、情報と情報との間に事柄の順序などの関係を見いだして整えたりすることが重要である。

また、他教科等の学習や学校の教育活動全体との関連を図り、実際に書いて伝えたり、反応を受け取ったりすることができるよう工夫することが効果的である。

② 合唱祭実行委員が、地域の方に「合唱祭の案内状」を書いています。次は、実行委員が作成した、【会議メモ】と【案内状の下書き】です。これを読んであとの問いに答えなさい。

【会議メモ】

- ・車で学校に来ることはできない。 ← 大事！
- ・自転車に乗った場合は、駐輪場に停めてもらう。
- ・生徒は制服を着てくる。
- ・8時に体育館が閉いて、9時に合唱祭が始まる。終わるのは12時予定。
- ・場所は学校の体育館。
- ・実行委員は7時に集合。…寝坊しないように前日は早めに寝よう！

【案内状の下書き】

令和5年8月吉日

地域の皆様

さいたま中学校合唱祭実行委員会

第45回さいたま中学校合唱祭のご案内

残暑の厳しい折、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、このたび第45回さいたま中学校合唱祭を下記のとおり開催します。日ごろ私たちを見守ってくださる地域の皆様と、秋の一日を楽しみたいと思っています。どうぞお願い合わせの上、お越しください。

記

日時	9月23日(土)	9:00~12:00(開場8:00)	A
場所	さいたま中学校体育館		
その他	駐輪場はございません。お車のご来校はおやめください。 自転車でお越しの場合は、駐輪場をご利用ください。		

以上

学習活動例

○伝えるべきことを整理して案内する文章を書く

学習の流れ

- ・学習の見通しをもつ。
- ・様々な案内する文章を収集し、案内する文章の特徴を考える。
- ・案内をする相手や内容を決める。
- ・必要な情報の収集、整理をし、下書きを書く。
- ・読み手の立場に立って見直したり読み合ったりし、推敲する。
- ・書いた文章を実際に案内する相手に渡し、反応を受け取る。
- ・学習を振り返る。

本單元における ICT 活用の例

- 学習の見通しをもつ／振り返る場面
- 案内する文章の特徴を考えるため情報を収集する場面
- 案内する文章を書く場面 ● 下書きを読み合い、推敲する場面

関連する指導事例

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(中学校国語)「読み手の立場に立って、文章を整えよう」
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書(中学校国語)授業アイデア例「考えの根拠が明確になるように情報を引用して書く」
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査報告書(小学校国語)授業アイデア例「学校の米作りについて解説する文章を書こう」

VI 中・中等教育学校 第2学年

1 調査問題【出題の趣旨】

話すこと・聞くこと	1	スピーチをする	「中学校に自転車で登校してよいか」というテーマでスピーチする場面を設定した。友達からのアドバイスを踏まえて、自分の考えが分かりやすく伝わるように、聞き手を意識しながら構成や表現を工夫することを求めている。
書くこと 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	投書を書く	新聞の投書を文書作成ソフトで書く場面を設定した。自分の考えが伝わる文章になるように、読み手の立場に立って説明や具体例を加えたり、表現の効果などを確かめたりして文章を整えることを求めている。
読むこと 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	説明的な文章を読む	『はずれ者が進化をつくる』という文章を取り上げた。文章全体と部分との関係に注意しながら主張と例示との関係を捉えることや、目的に応じて適切な情報を得たり、文章と図表を結び付けたりして内容を解釈することを求めている。
我が国の言語文化に関する事項	4	伝統的な言語文化	『宇治拾遺物語』を取り上げた。現代語訳を手掛かりに、作品を読むことを通して登場人物の心情などを想像すること、現代の口語とは異なる古文特有のきまりの一つとして、歴史的仮名遣いを理解することを求めている。
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	文や文章 表現の技法	『雨のあと』を取り上げた。文の構成に着目し、修飾語と被修飾語の照応について理解すること、比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を、その意味や用法とともに理解することを求めている。
我が国の言語文化に関する事項	6	漢字 語彙 書写	音訓や意味、用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を使うこと、慣用句の意味を理解し、文章の中で使うこと、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解することを求めている。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
		(1)	(2)	(3)	A	B	C										
		言葉の特徴や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと										
①	1	自分の立場や考えが明確になるように、論理の展開など話の構成の工夫について理解しているかどうかをみる。					○			○	選	81.5	0.3				
	2	資料を用いて、自分の考えを分かりやすく伝えるための表現の工夫について理解しているかどうかをみる。					○			○	選	60.9	0.1				
	3	自分の考えが分かりやすく伝わるように、相手の反応を踏まえながら表現を工夫することについて理解しているかどうかをみる。					○			○	選	72.0	0.2	R1市【中1】 R4市【中2】	57.6 70.8	中1	72.7
	4	自分の立場や考えが明確になるように、聞き手を意識した論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる。					○			○	選	51.1	0.3				
②	1	説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる。					○			○	選	93.1	0.3				
	2	説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる。					○			○	選	80.8	0.2				
	3	読み手の立場に立って、表現の効果を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。					○			○	選	77.4	0.3				
	4	敬語の働きについて理解し、文章の中で使うことができるかどうかをみる。	○							○	短	65.3	1.6	R4市【中2】	70.3		
③	1-1	目的に応じて適切な情報を得て、内容を解釈することができるかどうかをみる。					○			○	短	62.6	6.8				
	1-2	目的に応じて適切な情報を得て、内容を解釈することができるかどうかをみる。					○			○	短	62.6	6.8				
	2	文章と図表を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。					○			○	選	36.7	0.6				
	3	目的に応じて適切な情報を得て、内容を解釈することができるかどうかをみる。					○			○	選	69.0	0.4				
	4	接続する語句の役割について理解し、文章の構造を捉えることができるかどうかをみる。	○							○	選	70.1	0.5	R1市【中1】 R1市【中2】 R4市【中2】	59.8 87.5 94.5		
④	1	現代語訳を手掛かりに作品を読むことを通じて、そこに描かれている情景を想像することができるかどうかをみる。					○			○	選	52.9	0.5	R1市【中1】 R4市【中2】	78.2 54.7		
	2	文語のきまりを理解しているかどうかをみる。					○			○	短	60.0	4.7	R1市【中1】 R4市【中1】 R1市【中2】 R4市【中2】	63.0 48.7 74.5 53.3	中1	87.1 35.1
⑤	1	修飾と被修飾との関係について理解しているかどうかをみる。	○							○	選	78.9	0.5	R1市【中1】 R4市【中2】	49.1 59.5		
	2	表現の技法について、その意味や用法とともに理解しているかどうかをみる。	○							○	選	76.7	0.5	R1市【中1】 R4市【中1】 R1市【中2】 R4市【中2】	65.0 49.7 71.1 54.3		
⑥	1(1)	文脈に即して漢字を使うことができるかどうかをみる。	○							○	選	74.4	0.4				
	1(2)	文脈に即して漢字を使うことができるかどうかをみる。	○							○	選	95.2	0.5				
	2	慣用句の意味を理解し、文章の中で使うことができるかどうかをみる。	○							○	選	95.9	0.4				
	3	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解しているかどうかをみる。					○			○	選	78.5	0.8	R1市【中1】 R4市【中2】	93.6 70.6		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げています。
調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査
なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、さいたま市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題等を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中・中等教育学校国語 第2学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等	
①	1	ウ	自分の立場や考えが明確になるようにするためには、話の構成を工夫することが大切です。【スピーチ原稿】では、最初にテーマに対する自分の立場を、間の段落ではその立場を支える理由を、最後に改めて自分の立場からの主張を述べることで、結論を明確にしています。そのため、正答はウとなります。
	2	ア	自分の考えが分かりやすく伝わるように、資料を適切に用いるなどして表現を工夫することが大切です。ここでは、視覚に訴えることの効果などを踏まえ、より見やすい資料にするための工夫について問うものです。【資料A】と見比べ、反映された内容として適切でないものとして、アが正答となります。ただし、実際に資料を用いて話す際には、資料に載せる情報が多すぎると、反対に分かりづらくなってしまいうので注意が必要です。
	3	ウ	話すときには、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することが大切です。相手の反応を踏まえるには、うなずきや表情などの聞き手の反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉えることが大切です。したがって、ウが正答となります。なお、表現の工夫としては、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意することが重要となります。
	4	イ	佐藤さんのアドバイスの空欄には、反対の立場の人から反論されそうな内容が入ることが考えられます。【スピーチ原稿】をもとにして考えると、「8割以上の方が自転車登校したいと言っている」根拠として、実際にクラスの友達にといったアンケート結果が事実としてあるため、反論されるものではないと判断されます。したがって、イが正答となります。
②	1	ア	この投書では、公園の利用ルールを守っていない人がいるということに問題意識をもっており、定められたルールは様々な立場の人を守るためにあるということを伝えています。したがって、ここでは「様々な立場の人が様々な過ごし方をしているため、ルールを守るべきである」ということを伝えられるようにすることが適切であると考えられるため、アが正答となります。
	2	Ｃ	加えようとしている一文に関連する内容について触れられている箇所を探します。ここでは「過去に事件や事故が起きた事実があったり、それらが想定されたりする」という、定められたルールの背景にある理由が書かれているため、Cが正答となります。
	3	エ	佐藤さんがこの投書を書いた意図は、1に示したような内容となります。したがって、ア～ウのような限定的な内容ではなく、エが正答となります。
	4	おっしゃっています 話されています 等	問題文に「学校の先生に対する敬意が表現できるように」とあります。「申す」では、先生の行為を控えめに言う「謙譲語」となってしまうため、先生の行為を高める「尊敬語」に直す必要があります。「申す」は「言う」や「話す」の謙譲語なので、これを「尊敬語」にすると、「おっしゃる」「お話しになる」「話される」ですが、傍線の「申しています」を生かして、「おっしゃっています」「話されています」とします。
③	1-1	ア 環境の変化	傍線の言い換えとして「生物はバラバラであろうとします。～どうしてでしょうか。」という箇所があり、その先にそのことについての説明が書かれています。空欄の前後のキーワード(「大きな〇〇に直面」「〇〇から離れたはずれ者が環境に適應)を手掛かりに読んでいくと、「かつて～」の一文にその内容が書かれていることが分かります。したがって、正答例の内容を書き抜くことができます。
	1-2	イ 平均値 (※ふつうでも可)	
	2	ア	Aの部分において「正規分布」は、「真ん中の平均値に近いものが多く、平均から離れるにしたがってその頻度は少なくなる」と述べており、「雑草の草丈」は、「グラフで表すと二山型」と述べています。したがって、アが正答となります。
	3	ウ	傍線の問いの先を読んでいくことで、「ふつう」という言葉は、「複雑で多様な自然界を、できるだけ単純化して整理してまとめ、人間の脳が理解できるようにしたもの」ととらえることができます。したがって、ウが正答となります。
	4	ア	前後の語句や文などをつなぐ働きをもつ接続する語句の働きについての問いです。空欄の前後で、どのような内容のつながりがあるのか確認すると、前に述べたことと反対の内容を述べているため、アが正答となります。
	5	イ	傍線の具体例が、傍線以降に書かれています。それぞれの例における「はずれ者」の進化の例について順に説明している内容を読んでいくことにより、表の空欄に当てはまるキーワードを得ることができ、正答が導き出されます。
④	1	ア	口語訳を基にして文章の展開を捉え、主語を答える問いです。傍線部を含む文頭に「あるじ」とあります。この文を読んでいくと、「『あるじ』に用事があり奥へ入ってに続くため、また出でたりけるに(また出てきたところ)」の主語は「あるじ」と解釈されます。
	2	いべきようも	古文のきまりの一つである、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問いです。語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お(わ行)」に直すこと、「ア段」+「う・ふ」は「オ段」の長音に直すきまりに従い、正答例のように直します。
⑤	1	エ	修飾・被修飾の関係を理解しているかを問うものです。「修飾語」とは、他の語句を詳しくする語であり、「ほろりほろりと」が詳しくしている文節を探すと、「(どのように)泣いている。」ということについて詳しくしている、とみることが出来ます。
	2	エ	文章に表れる表現の技法とその効果について理解しているかを問うものです。この詩では人ではない「葉っぱ」を、「泣いている」「笑い出す」と、人にたとえている「擬人法」の表現となっています。擬人法の表現により、葉っぱの様子がよりイメージしやすくなっています。
⑥	1(1)	ア	「はかる」の異字同訓の漢字を問うものです。「コミュニケーションを」に続く「はかる」としては、「意図する」という意味となるため「ア 図る」が正答となります。なお、「イ 測る」は長さ等、「ウ 計る」は時間等、「エ 量る」は重さ等を調べるという意味でそれぞれ使われることが多いです。
	1(2)	ア	「しゅうせい」の同音異義語の熟語を問うものです。「魚には群れをつくる」に続く「しゅうせい」としては、「同種の動物にみられる特有の行動様式」という意味となる「ア 習性」が正答となります。なお、「イ 修正」は不十分、不適当な点を改め直すこと、「ウ 集成」は多くのものを集めて一つにまとめること、「エ 終生」は生まれてから死ぬまでの間をそれぞれ意味しています。
	2	イ	慣用句「心を打たれる」の意味を問うものです。「胸を打つ」とも言います。
	3	ウ	点画の丸み、点画の方向や形の変化、点画の連続、点画の省略など、行書の特徴と、行書に調和する仮名の書き方を理解しているかをみる問いです。平仮名は漢字よりも小さめに書くこととよとされています。

4 特徴的な問題と解説

中・中等教育学校第2学年 国語 読むこと

特徴的な問題

【問題2】 説明的な文章を読む 『はずれ者が進化をつくる』

出題の趣旨

文章全体と部分との関係に注意しながら主張と例示との関係を捉えることや、目的に応じて適切な情報を得たり、文章と図表を結び付けたりして内容を解釈することを求めている。

指導のポイント

○文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する

読む対象には、同じ形式で書かれた一続きの文章のほか、異なる形式で書かれた文章が組み合わせられているものがある。また、概念図や模式図、地図、表、グラフなどの様々な種類の図表を伴う文章がある。文章とそれらの図表などとの関連には、断片的な情報が互いに内容を補完し合っている場合、文章が図表の解説になっている場合などがある。内容を解釈するためには、それぞれどの部分とどの部分とが関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、その結果どのような効果が生まれているのかを考えることが重要である。

学習活動例

○文章と図表の関係を考えながら読む

学習の流れ

・学習の見通しをもつ。

・身近な様々な説明的な文章から、文章と図表との結び付きや、図表の効果について考える。

・図表の入っていない(除いた)教材を読み、図表を入れるべきところや図表の内容を検討し、考えを共有する。

・学習を振り返る。

本単元におけるICT活用の例

- 学習の見通しをもつ／振り返る場面
- 入れるべき図表を検討し、考えを共有する場面

関連する指導事例

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(小学校国語)「便利な道具の仕組みや作り方について調べて報告しよう」

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

自然界は、ばらつくとはいっても、平均的なものが一番、数が多い多数派になるような気がします。

自然界では、生物の特性の分布は「正規分布」と呼ばれる分布をするものが多いことが知られています。確かに正規分布をみると、真ん中の平均値に近いものが多く、平均から離れるに従ってその頻度は少なくなります。

しかし、タンポポはすべて黄色い色をしているように、もし、平均値が優れているのであれば、どの個体も平均値に近づきます。

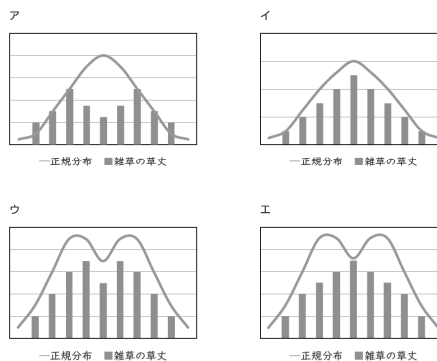
すべての個体が平均値でなく、ばらついているということは、そのばらつきに意味があるということなのです。

また、実際には、平均的なものが一番、数が多いとは限りません。

たとえば、雑草の高さでは、他の植物と競い合って高く伸びるものもあれば、他の植物と競争せずに、草丈を低くするという戦略もあります。他の植物と競い合って負けてしまうくらいの、中途半端な草丈が一番、不利なのです。この場合、分布をグラフで表すと二山型になります。

平均がもっとも多いとは限らないのです。

2 本文中の[A]の部分で述べている「正規分布」と雑草の草丈の分布をそれぞれグラフで表しました。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。



令和5年度 さいたま市学習状況調査委員会・教科等部会名簿【国語】

【小学校校長会】 栄 小学校 校長 安島 俊之

【中学校長会】 上大久保中学校 校長 高久 正行

【小学校国語科部会】

部長 神田小学校 校長 米玉利優子
副部長 常盤小学校 教頭 西村 真規
部員 高砂小学校 教諭 谷口 周
土合小学校 教諭 小瀬村治彦
原山小学校 教諭 浅子 直基
大谷場東小学校 教諭 下山田遼子
野田小学校 教諭 須藤 祥子
栄和小学校 教諭 森永 崇寛
中尾小学校 教諭 泉 正人
大宮南小学校 教諭 山田 郁子
芝川小学校 教諭 松尾 祐介
大谷小学校 教諭 野村 昌平
東宮下小学校 教諭 長谷川修子
与野南小学校 教諭 神田 香利

【中学校国語科部会】

部長 三室中学校 校長 廣江 剛
副部長 本太小学校 教頭 平山 昂
部員 木崎中学校 教諭 手島 真弓
東浦和中学校 教諭 塩原 昭彦
大久保中学校 教諭 橋本 柗平
大宮南中学校 教諭 中村 久美
大宮北中学校 教諭 渡辺 光祐
植竹中学校 教諭 根岸 佳代
第二東中学校 教諭 森田 真弓
美園南中学校 教諭 平井 亮

【担当】

教育研究所 主任指導主事 橋本 貴大
指導1課 指導主事 田中 康広

教育研究所 主任指導主事 阿部 史朗
指導1課 主席指導主事 古川 明子

令和5年度 さいたま市学習状況調査 正答例等 国語

令和6年2月 発行

発行 さいたま市教育委員会

編集 さいたま市立教育研究所
